

「核と人類は共存できない、語りつごう・走り続けよう・ヒロシマ・ナガサキ・オキナワの心を！」をスローガンに第29回県反核・平和の火リレーが10月22日(月)、川崎市役所前を起点に開催されました。主催は反核・平和の火リレー県実行委員会(代表道田哲朗神奈川平和運動センター事務局長)。

今年は川崎市役所が改装工事のため出発式典は川崎市労連会館で行われました。

主催者を代表して長友事務局長は「この活動は1980年、広島青年たちによって始められ、神奈川では1990年から青年・女性組織を中心に実行委員会方式で取り組まれ、核兵器の禁止、被爆者援護法制定、被爆体験の継承を目指して平和の火をトーチに掲げ始まった。神奈川にはキャンプ座間、相模補給廠、米軍池子住宅、横須賀基地など市民の不安材料など多くあるが、私たちは戦争の悲惨を後世に語り続

反核平和の火リレー始まる

10月22日~26日

スタートは川崎市役所前!



川崎市労連会館で開かれた出発式典、参加者は35名

け、『核と人類は共存できない』ことをこの活動を通して市民に訴えていこう」と訴えました。リレーは10月22日~26日の5日間、141区間、197キロ。自治体要請行動としては川崎市役所にはじまり、横浜市役所、県庁、大和市役所、厚木市役所、藤沢市役所、横須賀市役所など県下21カ所に及びます。白地に赤の反核平和の火リレーのタスキをかけ、「核はイラナイ」「基地はイラナイ」「戦争法反対」「厚木基地へのオスプレイ配備反対」など平和の大切さ・尊さを

市民に訴え、また厚木基地、横須賀基地前では「辺野古新基地建設反対」「原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀基地母港化撤回」「オスプレイはアメリカに帰れ」など抗議・怒りの声をあげました。最終地点の横須賀市役所前ではリレー参加者1494名が報告されました。

核と平和は共存できない!



上は瑞穂ふ頭よりみなとみらい地区を望む
下は川崎市役所を出発するリレー参加者

